

特別助成 東日本大震災の被災者を元気づける事業

「ナマステ・インド in 女川町」事業

震災時のレスキュー隊の活動を契機に始まった 女川町とインド大使館との継続的交流を支援

東日本大震災の2週間後、インドから46名のレスキュー隊が被害の甚大だった宮城県女川町に入り、犠牲者の遺体の収容や捜索などに貢献した。それ以来、女川町とインド大使館の交流が続いているが、それをサポートしているのが「NPO法人日印交流を盛り上げる会」である。2016年、同会では「ナマステ・インド in 女川町」を開催した。



インドの伝統舞踊やアートを体験できる「ナマステ・インド in 女川町」



米粉を用いて描かれる伝統的な細密画のワークショップ

インドフェスティバルとして高い知名度を誇る 「ナマステ・インド」を女川町でも開催

「NPO法人日印交流を盛り上げる会」は、インド国外では世界最大規模とされるインドフェスティバル「ナマステ・インド」を2005年から主催者のひとつとして実施しているほか、インド政府から派遣される舞踊・音楽団体などの公演をローカスポンサー獲得などを含め、支援してきた。いわば日本とインドの文化的な交流を中心となって支えてきた民間団体であり、その実績から、在日インド大使館からの信頼も厚い。

東日本大震災の発生時にインドのレスキュー隊（国際災害対応部隊）が派遣されて以来、女川町とインド大使館との交流が続いているが、「ぜひ、女川町でインド舞踊公演を」とインド大使から声をかけられていた同法人では、町が震災から立ち直り、復興に向けて徐々に歩み始めたのを機に、2014年にはインド文化省から派遣されたマニプ

リ舞踊団、2015年にはインド文化交流評議会（ICCR）から派遣されたグジャラート民俗舞踊団の公演を実現させた。

さらに昨年、同会では代々木公園で開催された「ナマステ・インド2016」に先立ち、9月17日に女川町まちなか交流館で「ナマステ・インド in 女川町」を女川町と共催で開催した（協力：インド大使館、インド文化交流評議会、エア・インド）。その事業運営費として、AJOSCの助成が活用された。

「震災直後には、国内外から様々な支援が寄せられます。しかし、時間が経つにつれて、そうした支援もなくなってくる。そんななかで、日本から遠く離れたインドの人々が継続して自分たちのことを思ってくれているということを実感できるイベントは、女川町の人たちにとって生きがいになると思う。やはり継続することが大切なのです」

同法人の長谷川時夫理事長は、「ナマステ・インド in 女川町」開催の意図を、そう語る。

インドの伝統的舞踊団の公演やアート体験で 盛り上がった「ナマステ・インド in 女川町」

イベント当日、会場となった女川町まちなか交流館には、町民をはじめ、1000人を超える人々が詰めかけた。ホールステージでは、ICCRから派遣されたマニプリ舞踊団12名によるマニプリ舞踊が披露された。この舞踊はインド北東のアッサム地方やミャンマーとの国境に接するマニプル州に伝わる民族舞踊だが、今回はマニプル州の主要民族であるメイテイ族の人々によって演じられた。また、マーシャルアーツのタンタ（武術）や太鼓を持った青年たちによるアクロバティックな踊りも披露された。

日本からも、地元の小乗浜実業団、女川港大漁獅子舞まむしのステージのほか、日本人によるインド古典音楽の演奏、 Bollywood、カタク、オリッシーなどのダンスが披露され、さながらインドの踊りと歌の文化祭のような盛り上がり

を見せた。

ロビーでは、2名のインド人アーティストによるフォークアートの一種であるワルリー画のワークショップも行われた。ワルリー画は溶いた米粉を用いて描かれる伝統的な細密画だが、現代アートにも通じる高い芸術性を備えている。また、ヘナという染料を使って手足に文様を描くメヘンディと呼ばれるアート体験、サリーを着ての撮影会なども行われた。また、東京・青山にあるインド料理店が提供した本場のインドカレーの試食、インド往復航空券が当たる抽選会なども人気を呼んだ。

今後、ますます経済的な関係が密接になると予想されるインドと日本の関係に文化交流などを通じて相互理解を深めることが必要条件であることは間違いない。震災を契機に始まった女川町とインドの交流だが、それを継続することがインドと日本の橋渡し役として貢献するだろう。



イベント当日は大勢の人々が詰めかけた



イベントを告知するチラシ

助成団体: 特定非営利活動法人 日印交流を盛り上げる会 <http://spijcr.mithila-museum.com>



日印交流の担い手としての使命感を持って今後も活動

日本の貿易総額の50%を対アジアが占めるようになり、なかでも今後の発展ということで大きな潜在力を持っているのがインドです。ナマステ・インドや女川町とインド大使館との交流を積み重ねることで、インドと日本の関係構築に寄与していきたいと考えています。AJOSCにもそうした観点からの助成枠を設けて欲しいと願っております。

NPO法人 日印交流を盛り上げる会
理事長 長谷川時夫さん